

令和2年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人石川県音楽文化振興事業団	
施 設 名	石川県立音楽堂	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	28,768	(千円)
	公 演 事 業	13,594 (千円)
	人 材 養 成 事 業	9,172 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	6,002 (千円)

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	トップレベルの文化芸術の振興（国際的水準のクラシック音楽の提供）	①12/11②10/27, 2/18	①挟間美帆、エリック宮城、山下洋輔 他 ②「パイプオルガンシリーズ公演」 ジャン＝フィリップ・メルカールト 他	目標値	1,900
		石川県立音楽堂 ①②コンサートホール		実績値	1,232 ※
2	トップレベルの文化芸術の振興（質の高い伝統芸能の鑑賞機会の充実）	①10/2, 3, 4 ②1/17	①「葵上」鳥の劇場 「隅田川」大槻文藏、福王茂十郎 他 ②「新春檜舞台」林家たい平、若柳宗樹 他	目標値	1,416
		石川県立音楽堂①交流ホール②邦楽ホール		実績値	547※
3	トップレベルの文化芸術の振興（異なる文化の融合・交流等による新たな文化の創造）	①2/14②3/9③3/6	①「OEK×京響」広上淳一、金剛龍謹 他 ②「おしち」松井慶太、立川談笑 他 ③「芸の鼓動」山村友五郎、森山開次 他	目標値	3,109
		石川県立音楽堂①コンサートホール②③邦楽ホール		実績値	1,453 ※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	地域文化の振興（将来の文化の担い手の育成）	①②通年③3/7④中止 ⑤12/6⑥10/2-4	①石川県ジュニアオーケストラ②いしかわ子ども邦楽アンサンブル③カレッジコンサート④新人登竜門コンサート⑤マイ7公演⑥インターシップ	目標値	2,962
		石川県立音楽堂		実績値	733※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	地域の文化振興（全ての 人々の鑑賞・文化活動を行 う機会の充実）	①10/11②全6回③全2 回④9/20	①ポップカルチャーコンサート②ラン チタイムコンサート③アフターセブン コンサート④音楽堂フェスタ	目標値	3,050
		石川県立音楽堂①②③ コンサートホール④交流ホール		実績値	3,713※
2	地域の文化振興（子どもが 文化に触れる機会の充実）	①全2日②12/13	①音楽堂キッズコンサート ②小学生のための音楽会	目標値	3,250
		石川県立音楽堂		実績値	2,594※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価	
<p>社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>	
<p>地域の音楽文化振興の中心的役割を担う施設として、音楽堂の存在意義、また条例・計画を踏まえ、「石川の文化創造・発信拠点として地域活性化に貢献する」という社会的役割（ミッション）を掲げ、公演事業・人材養成事業・普及啓発事業それぞれに目標（ビジョン）を設定し、その達成に向けて着実に取組を推進できた。</p> <p>しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点により、事業の規模縮小や中止など変更が生じた。</p> <p>詳細は（3）効率性に記載しているが、中でも、公演事業1、人材養成事業、普及啓発事業1において大きく乖離が生じる結果となった。1公演を中止としたが、その他の事業については、延期、出演者・内容の変更、公演時間の短縮や一部インターネットを利用するなどの感染症対策を講じ、目標（ビジョン）の達成に向けた事業の実施に努めた。今後も同様にコロナ禍での事業実施となる可能性があるため、柔軟に対応しながら不断の見直しに取り組んでいく。</p>	
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>	
<p>当館は、環境分析（※）に基づいた目標（ビジョン）設定をし、事業を実施した。地域における当館の環境を再確認することで、より文化的、社会的、経済的意義を踏まえた目標となり、目標達成に向けて事業を推進することができた。</p>	
<p>（※）環境分析</p> <p>内部環境（施設の強み・特色） → 強みを活かし、弱みを克服する</p> <p>外部環境（地域の特性・ニーズ等） → 機会を攻略し、脅威を回避する</p>	
<p>①【強み→活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーケストラ・アンサンブル金沢を有する。 ・特色ある3ホールを有する。 ・国内外の著名なアーティスト、地域で活躍する音楽家や団体とのネットワークを築いている。 ・金沢駅に隣接しており、利便性が高く、賑わいがある。 	
<p>②【弱み→克服】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽団員・施設職員の平均年齢が上昇している。 ・学校教育との連携が不十分である。 	
<p>③【機会→攻略】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・藩政期以来培われてきた伝統芸能が盛んな地域性がある。 ・県民のクラシック音楽に対する受容が高い。 	
<p>④【脅威→回避】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者等のクラシック離れ（顧客の高齢化）が進んでいる。 ・少子高齢化、転出超過により、市場規模が縮小している。 	
<p>●上記4種（①②③④）の要因を組合せ、事業を企画・実施した。</p>	
<p>◎①強みを活かし、③機会を攻略 → 公演事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際的水準のクラシック音楽の提供 ・質の高い伝統芸能の鑑賞機会の充実 ・異なる文化の融合・交流等による新たな文化の創造 	
<p>◎①強みを活かし、④脅威を回避 → 普及啓発事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての人々の鑑賞・文化活動を行う機会の充実 ・子どもが文化に触れる機会の充実 	
<p>◎②弱みを克服し、③機会を攻略 → 人材養成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来の文化の担い手の育成 	

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

公演事業

洋楽・邦楽ともに高い受容がある地域の特性を踏まえ、地域の財産である多機能なホールやレジデント・オーケストラ（OEK）といった資源を活用することで、

①当事業団の特徴的な事業である洋楽と邦楽の融合に持続的に取り組む

②顧客満足度の一層の向上を図り、定期会員数の減少に歯止めをかける

ことを目標として下記指標を設定した。

成果指標	基準値 (H28)	H29	H30	H31	R2	目標値
①異なる文化の専門性・芸術性が融合した創造的な公演数	2公演	3公演	3公演	2公演※	3公演	3公演以上
②入場者アンケートによる「大変満足」「満足」の合計割合	91.9%	92.7%	93.1%	93.6%	91.4%	95.0%

①新型コロナウイルス感染症の影響により、日程変更や規模縮小等内容に変更が生じたが、感染症対策を講じつつ、レジデント・オーケストラ起用や、各分野において著名で実績のある演者の出演、舞台機構も十分に活用するなど、内容の充実した事業の実施を継続できた。（※H31は1公演中止）

②目標値には届かず、過去5年間で最も低い数値となった。定性的な面においては、公演内容に良い評価を示す意見や「コロナ禍に公演を実施してくれて嬉しい」という意見がある一方で、参加上限人数が収容定員の100%になったことなど不安の声がみられた。当面は、同様の意見が予想されることから、引き続き感染防止策を講じつつ、より質の高い公演の実施に向けて創意工夫を図っていく必要がある。

人材養成事業

地域の文化レベルの維持と底上げに向け、その担い手となる若年層の確保を図ることを目標として下記指標を設定した。

成果指標	基準値 (H28)	H29	H30	H31	R2	目標値
育成団体の団員数	119人	120人	111人	106人	108人	130人

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、当館担い手育成事業の1つである合唱団体は今年度の実施を見送ったため、新入団は0名であった。他の育成団体は8月より随時活動を開始し、入団人数は13名となり、退団人数を上回り2名増となった。今後も自主事業公演など参加機会の確保を図るとともに、積極的な周知にも取り組むなど、参加者数の維持・拡大に努めていく。

普及啓発事業

顧客ニーズを見定め、新規来館者の増加を図ることを目標として下記指標を設定した。

成果指標	基準値 (H28)	H29	H30	H31	R2	目標値
入場者アンケートによる「大変満足」「満足」の合計割合	91.9%	92.2%	94.6%	94.2%	94.2%	95.0%

今年度の指標達成状況は、昨年度とほぼ同等の値である。新型コロナウイルス感染症の影響により、特に子どもや親子向けの公演が減っている中、ニーズに応えたコンサートを実施したことにより、満足度の維持につながった。今後も顧客ニーズを踏まえ、幅広い内容の公演を提供することで、目標値を達成するよう努めていく。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

事業期間について、年間を通し、事業ジャンルや適時性を考慮した当初計画に対し、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、計画通りに事業を遂行することができなかった。しかし、日程調整や内容の工夫、感染症対策を講じるなどに努め、予定した事業に取り組んだ。

当初の販売計画や広報計画について、チケット販売開始時期は概ね3か月前を予定していたが、昨今の状況を鑑み、2か月～1か月前の販売開始にせざるを得ない状況となり、同様に広報計画にも遅れが生じた。また、参加者(入場者)把握のためにチケットプレイガイドを利用した販売を中止したことは、広報活動にとってのデメリットとなった。

事業費においても同様に、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、事業内容をより精査し進捗していく中で、下記の通り、中止や内容の変更により事業費の乖離が生じた。また、令和2年度実施事業一覧(1)(2)(3)に記載の通り、事業全体では、入場者・参加者数は当初予定の65%に留まった。当面は、コロナ禍における事業の実施が予想されることから、引き続き感染防止策を講じ、収支バランスを図りながら、目標(ビジョン)達成に向けて着実に取組を推進していく。

(大きく乖離が生じた主な事業)

公演事業1: ②海外の出演者を国内在住出演者に変更

公演事業2: ①入場者数制限により当初予定の座席設定数の33%にて実施

人材養成事業1: ①「石川県ジュニアオーケストラ」7月末までの活動休止、2公演と合宿の中止

②「いしかわ子ども邦楽アンサンブル」7月末までの活動休止と1公演の中止

③「カレッジコンサート」プロオーケストラの指導回数を縮減

④「新人登竜門コンサート」公演の中止

⑤「メサイア公演」地域の一般・児童合唱団の参加中止

普及啓発事業1: ①「ポップカルチャーコンサート」連携予定の地域のイベント中止に伴う内容の変更

: ③「アフターセブンコンサート」海外出演者の招聘を断念

: ④「音楽堂フェスタ」日程変更、参加人数・体験楽器制限、講座数の縮減等の規模縮小

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

当館における地域の文化拠点としての機能（資源）は下記のとおりであり、当館事業はこうした特性を最大限に活用する事業を実施できた。また、事業内容において、

- ・レジデント・オーケストラを核とする公演
- ・伝統芸能文化を核とする地域の特徴を活かした公演
- ・洋楽と邦楽の融合に取り組む公演
- ・新作初演公演

などにも取り組むことで、内容の充実・工夫に努めている。

【当館における機能（資源）】

①キーパーソン

- ・芸術監督（マルク・ミンコフスキ）に加え、洋楽監督（池辺晋一郎）・邦楽監督（駒井邦夫）の存在により、当館が提供する芸術活動に、方向性と系統性・持続性を持たせ、芸術内容を深化させることができた。
- ・舞台技術責任者の存在は、舞台を熟知する専門家として、計画的な機材の点検、補修、更新を実施し、会館の機能向上に資するといえる。

②専属団体

- ・専属団体であるオーケストラ・アンサンブル金沢（OEK）を有することで、オーケストラを活用した事業を柔軟に企画展開することができる。さらに、関連する団体（合唱団、ジュニアオーケストラ、いしかわ子ども邦楽アンサンブル等）を通し、地域と有機的なネットワークを形成し、会館の支援団体としての機能を持たせることができる。

③建物設備等

- ・当館はコンサートホール、邦楽ホール、交流ホールと3種のホールを併せ持ち、それぞれのホールの特性に合わせた事業を展開した。
- ・コンサートホールの形状は、伝統的に響きが良いとされるシューボックス型を採用。優れた音響特性と臨場感を生み出している。
ホール正面にはドイツ製（カールシュツェ社）のパイプオルガンを備えており、コンサートのみならず学会等のオープニングなど多様な場面で使用している。
- ・邦楽ホールは歌舞伎や文楽の公演ができる邦楽専用ホール。また、演奏用に壁、天井の移動式音響反射板も配備しているため、室内楽やオーケストラ公演も可能。
- ・交流ホールは段床（観客席250席）迫りや舞台迫り、迫りフェンス、大型映像装置等を備え、演奏会、講演会、パーティー、展示会、舞踊競技等、様々な催しに対応できる多目的スペース。3ホールの中で稼働率は最も高く、県民の文化交流の場となっている。
- ・コンサートホールと邦楽ホールは、背中合わせに配置されており、公演の内容により楽屋やホールを機能的に使用できる。
- ・当館敷地が金沢駅兼六園口（東口）に面していることから、駅東広場とつながる1階と地階には多目的な利用が可能な交流ホールを設けているほか、コンサートホール側の2階（来場者ロビー）には、金沢駅と一体となった景観が望めるカフェスペースを設置するなど、県民の交流や観光客の憩いの場として、賑わいの創出を図っている。また、音楽堂の周辺にはホテルなどの宿泊施設も多く、利便性の高い立地条件となっており、海外や県外からの利用者も多い施設となっている。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

『本物の音楽に直接触れたい』『OEKを聴きに行きたい』『オルガンのあるホールなので、たくさん企画してほしい』といった地域のニーズに対し、当館は下記目標を設定し、地域の文化拠点としての機能・資源（前述）を活用・投入した事業を推進することで応えている。

【トップレベルの文化芸術の振興】

①国際的水準のクラシック音楽の提供 → **公演事業 1**

- レジデント・オーケストラである OEK の公演だけでなく、国内外のトップアーティストによるコンサートも実施
- 音楽堂の財産であるパイプオルガンの魅力をより一層アピール

②質の高い伝統芸能の鑑賞機会の充実 → **公演事業 2**

- 邦楽専用のホールを活用し、邦楽監督・プロデューサーの監修のもと、最高級の伝統芸能を鑑賞する機会を幅広く提供
- 「芸のまち・いしかわ」として、地元の出演者も積極的に活用

③異なる文化の融合・交流等による新たな文化の創造 → **公演事業 3**

- 県の音楽文化振興の中心的役割を担う音楽堂として、引き続き、洋楽文化と邦楽文化の融合による新たな文化の創造を推進
- 県内外の観客・出演者が新たな文化と出会う場を創出し、県の文化の裾野拡大を図るとともに誘客の増加を推し進めるもの

【地域文化の振興】

①全ての人々の鑑賞・文化活動を行う機会の充実 → **普及啓発事業 1**

- クラシックファンでなくても楽しめるバラエティ豊かなコンサートを鑑賞する機会を提供
- 気軽に音楽堂に足を運び、観客として、出演者として、多様な音楽文化に触れられる機会を提供

②子どもが文化に触れる機会の充実 → **普及啓発事業 2**

- 0歳児からクラシックや伝統芸能に触れられる機会を提供し、子供の豊かな感性の育成に寄与
- 部活に入る前の小学生などが合奏の機会を通して、技術向上や人格形成、将来の演奏家や音楽ファンの創出につなげるもの

③将来の文化の担い手の育成 → **人材養成事業**

- 洋楽、邦楽の振興を将来的に担う若者（小～大学生）等の育成を図るための事業を展開
- インターンシップの受け入れや他館との合同研修の実施等を通して、アートマネジメント人材の育成やスタッフの資質向上を推進

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

当館組織の構築、強化、維持について、当館中期経営目標（実施期間 平成 30 年度～令和 4 年度）を

①入場者数を 5 年間で 8%増加させる。

②利用者（貸館）アンケートによる満足度は引き続き 95%以上を維持する。

と設定し、目標達成に向けた適切な運営を行うため、設置者と人事・経営戦略やネットワーク、事業内容など組織活動に関する情報、さらには下記の現状と課題の共有を図りつつ、PDCA サイクルを連結させ、持続的に改善・発展に努めている。

【人事】

専属団体構成員の転換期（退職期）を迎え、新規の演奏家の獲得を随時実施している。

運営事務局構成員も同時に世代交代を進め、経験を積んだプロパー職員への運営移譲を進めている。引き続き、地域住民の理解と支援を得られる施設としての在り方を追求していく。

【劇場・音楽堂等間のネットワーク】

地域や国内の劇場・音楽堂との共同制作事業、共同公演事業を実施。また、全公文の総会や東海北陸支部、県公文協の研修会などに参加するほか、劇音協等との情報交換を定期的に行っている。

【教育機関とのネットワーク】

大学との提携の一環として、例えば、昭和音大からのインターンシップ受け入れを実施している。

これまで OEK による幼稚園、保育園、小中学校、特別支援学校での公演を実施してきた。更に、3 年計画として、市内全中学校を廻る公演の実施を予定している。

【ボランティア】

地域の音楽愛好家によるボランティア団体が当館の事業運営を幅広くサポート。

春の音楽祭では大勢の学生や地域住民をボランティアとして積極的に活用している。

ひいては当館のサポーター（顧客）となることも見据えて受け入れを推進。

【財政支援者】

財政支援者である定期会員数は前年比 30%の減少、賛助会員数は前年比 7%の減少と、共に減少傾向にあり、会員数の増加に向けて更なる事業内容の充実や施設の利用促進に努める。

【施設運営】

貸館利用促進のため、ホームページ、フェイスブック、ツイッターの活用、マスコミへの協力など積極的な情報発信を行っているが、更なる充実を図る必要がある。

また、維持管理について、コロナ禍における昨今の現状において、これまで以上に安全・安心を第一に、来館者が快適に過ごせる環境を整えると共に経費の節減・効率化に努めている。